令和6年7月3日(水)

令和6年度 第1回学校関係者評価委員会 報告

- 1 日時 令和6年6月26日(水) 14:00~15:00
- 2 場所 本校簿記実習室
- 3 出席者 学校関係者評価委員5名, 本校職員19名

4 内容

- (1) 開会のことば
- (2) 校長あいさつ及び委嘱状交付
- (3) 委員紹介
- (4) 本年度学校経営方針及びスクール・ポリシー
- (5) 学校概況説明と本年度の目標(各課程10分ずつ)
- (6) 学校評価アンケート結果報告(通信制 昨年度の生徒分)
- (7) 質疑・意見交換

<質問>

- ・牧委員(通信制教育振興会会長)

(通信制)

①令和5年度生徒の評価によれば、Bグループは他グループより取組状況の割合・平均が高いが、Bグループは他グループよりも単位修得率が高いのか?

→(村田教頭) その通りである。

(通信制)

②部活動の外部講師はいるのか。

→(原校長) いない。生徒のニーズに沿った指導を心掛けている。

- ・玉利委員(谷山中学校校長)

中学校の関心事は、自己推薦と学校推薦の兼ね合いである。学校推薦が認められず、自己推薦で受検した生徒が合格し、学校推薦の生徒が不合格のケースも考えられる。今後、中学校でも推薦の在り方の検討を進めるが、高校として何か対策はないのか。

→(原校長) 高校としてはない。ただし、本校は開校以来、自己推薦を行っており、スクール・ポリシーのアドミッション・ポリシーを参考に自己推薦の準備を進めて頂きたい。

<意見>

ア 今吉委員（鹿児島南警察署スクールサポーター）

先生方の取組がしっかりしていると感じた。ある中学校の卒業生からその中学校に TEL があった。「朝晩のアルバイト，レポート提出を頑張っている」と言っていた。開陽高校が自分に合った学校で，自分の居場所があるようだ。

イ 本村委員（全日制 PTA 会長）

生徒が生き生きと生活できる学校であることを実感している。年々，生徒・保護者さんが多様化している中，対応も様々だと思うが，それに合った開陽高校であってほしい。

ウ 牧委員（通信制教育振興会会長）

多忙な中，部活動まで教員が関わるのは難しいので外部講師を採用してもらえると，生徒指導面でも良い結果がでると思う。

エ 小幡委員（定時制教育振興会会長）

自分の子供は，大学進学を希望しているが，多様な生徒を受け入れ，それぞれの進路目標に応じた就職・進学指導を，今後も継続して頂きたい。

(8) 閉会の言葉